

担い手の育成と売れる米生産で元気な水田農業を目指して



太陽と自然の恵み

さがえ西村山産米ブランド 「清流寒河江川」

～安全・安心な米を消費者へ～

JAさがえ西村山 令和6年用 土づくり安心米 病虫害防除暦・施肥基準

※本防除暦は令和5年10月末現在の農薬登録内容に基づき作成しています。
使用する際は最新の登録内容を再確認して下さい。

◆ 土づくり安心米農薬散布の注意事項

- ◎農薬散布する時はマスク、手袋などを着用し、農薬事故防止に努める。
- ◎長時間の連続散布や疲れている時は、散布作業をしないように努める。
- ◎飲食喫煙する時は、石けんを用い、手や顔を洗ってから行う。
- ◎保管や使用に際しては環境への影響を十分に考慮し適正な保管・使用に努める。
- ◎飛散による危被害防止のため、散布時間、散布方法に留意するとともに隣接作物や周辺環境に十分配慮して使用する。



農薬の適正使用、飛散防止に努めましょう!!

さがえ西村山農産物安全・安心対策推進会議・寒河江市・河北町・西川町・朝日町・大江町
JAさがえ西村山・JAさがえ西村山水稻部会・JA全農山形・NOSAI山形



- ・ 営農企画部 TEL86-8184
- ・ 寒河江営農生活センター TEL86-8186
- ・ 大江営農生活センター TEL62-3217
- ・ 朝日営農生活センター TEL67-3535
- ・ 西川営農生活センター TEL74-2127
- ・ 河北営農生活センター TEL72-2125
- ・ JAアグリ寒河江店 TEL83-5055

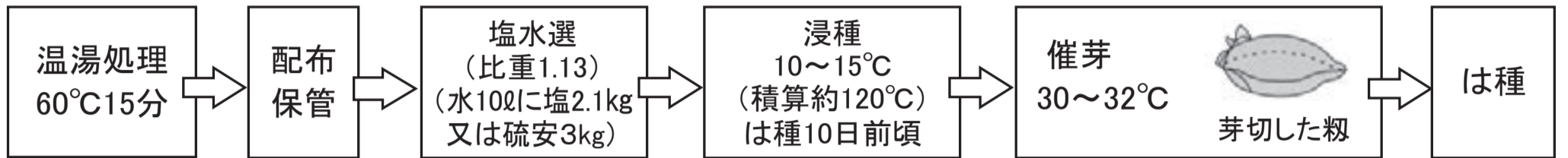
産地のこだわりを消費地へ！ 栽培管理記録簿は確実に記帳・提出を行いましょ！

I. 防 除 暦

1. 種子消毒

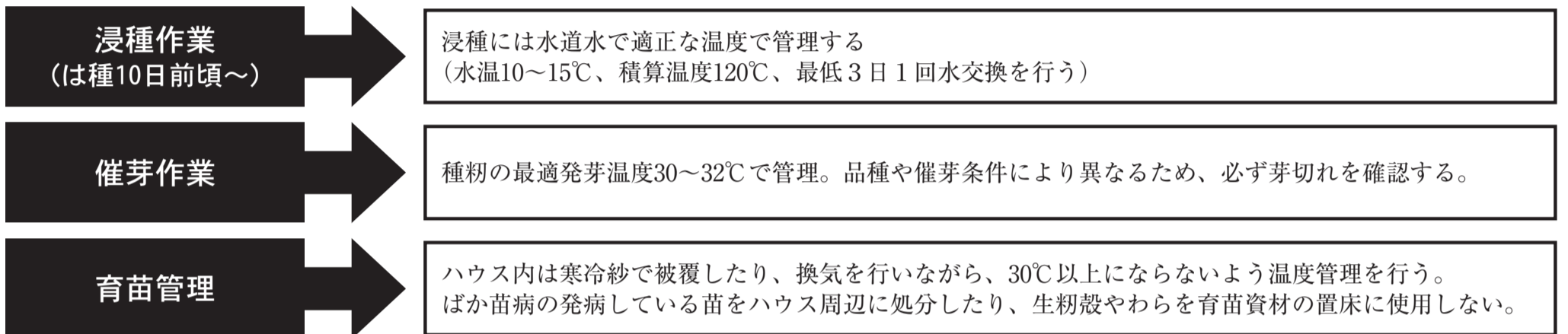
処理時期	対象病害虫名	土づくり安心米	内 容	注 意 事 項
3 月	ばか苗病 いもち病 苗立枯細菌病	温湯処理種子 (うるち品種のみ)	薬剤処理は行わず、60℃の温湯に15分間浸漬し、直後に水で冷却する。	①『土づくり安心米』は全量温湯処理種子使用を条件とする。 ②温湯処理種子は、基本的に薬剤による種子消毒は不要。

◆ 温湯処理種子の取扱い



○保管方法……ネットのまま日陰につるす等、乾燥しやすい状態で保管。(処理しない種子と一緒にしたり、地べたに直接置かない)

ばか苗病対策には温度管理が重要



◎ 例年ばか苗病が発生する場合は、以下の農薬、資材で対応を行う。(土づくり安心米で使用可能)

使用時期	対象病害虫名	土づくり安心米	使用基準	使用回数	注 意 事 項
催 芽 時	ばか苗病 いもち病 もみ枯細菌病 苗立枯細菌病 苗立枯病 (リゾープス菌)	エコホープDJ	200倍希釈液に24時間種子浸漬する。	—	①本剤を使用した場合は、殺菌剤は使用しない。 ②催芽時は25~32℃の適正な水温で行う。(低温下では効果が劣る場合がある。)

※育苗箱消毒する場合は、育苗箱使用前にイチバンの500倍液に育苗箱を瞬時浸漬するか、直接散布する。残液処理は安全な方法で行う。

2. 育 苗 期

回数	使用時期	対象病害虫名	土づくり安心米	使用基準	使用回数	注 意 事 項
①	は 種 前	苗立枯病 ピシウム菌 フザリウム菌 リゾープス菌	ナエファイン粉剤	苗立枯病対策は、は種前に6~8g/箱育苗箱土壌に均一に混和する。	1 回	①育苗器具機材の水洗いを十分に行う。 ②リゾープス菌の発生防止のため育苗中は33℃以上にしない。 ③フロアブル剤を使用する際は、よく攪拌し沈殿しないように注意する。
	は 種 時		ナエファインフロアブル	は種時 2,000倍液を1L/箱土壌かん注する。 は種時 1,000倍液を500ml/箱土壌かん注する。	2 回	

※トリコデルマ菌が発生した場合はダコレート水和剤の500倍液を、は種時から緑化期 但しは種14日後まで0.5ℓ/箱をかん注する。(2回以内) (土づくり安心米対象外)

3. 育苗箱施用剤

回数	使用時期	対象病害虫名	土づくり安心米	使用基準	使用回数	注 意 事 項
②	緑化期 ~移植当日	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 イネミズゾウムシ イネドロオイムシ ニカメイチュウ ツマグロヨコバイ イネヒメハモグリバエ フタオビコヤガ コブノメイガ イナゴ類	ブイゲットパディート粒剤	箱当たり50gを育苗箱の上から均一に散布する。	1 回	①所定薬量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水して田植機にセットする。 ②移植後は湛水状態(3~5cm)を保ち、苗が活着するまで田面が露出しないようにする。 ③本剤と除草剤を間違わないようにする。
	移植3日前 ~移植当日	イネツトムシ ヒメトビウンカ				

※ブイゲットパディート粒剤に代えてアプライパディート粒剤を使用してもよい。(土づくり安心米対象)

(1)は種前に使用する場合箱当たり50gを育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。(使用回数1回)

※対象病害: いもち病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ

(2)は種時(覆土前)に使用する場合箱当たり50gを育苗箱の上から均一に散布する。(使用回数1回)但し専用散布機が必要。

※対象病害虫: いもち病、白葉枯病、もみ枯細菌病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、ニカメイチュウ、ツマグロヨコバイ、フタオビコヤガ、イネヒメハモグリバエ、イナゴ類、コブノメイガ、イネツトムシ

注) ブイゲットパディート粒剤と使用方法を間違えないように注意する。

※移植後の取り置き苗によって、いもち病などの原因になります。速やかに処分しましょう。

農薬の適正使用、飛散防止に努めましょう!!

4. 本田期

除草剤をよく効かせるポイント

①使用のタイミングを逃さない！

- ・初期一発剤の使用時期は雑草の発生前！
- ・残存雑草後発雑草の発生状況を必ず確認！
- ・中期剤は雑草がごく小さいうちに使用。

②水持ち維持は必須条件！

- ・代かきを丁寧にして水持ち改善
- ・畦畔からの漏水防止。(ネズミ穴、畦畔の土崩れなど)
- ・除草剤をよく効かせるため散布後7日間は湛水状態を保つ。



◆ 初期除草剤 ※以下のいずれか1回のみ使用可能

回数	土づくり安心米	10aあたり使用量	使用時期	使用回数	カウント成分	注意事項
③	ソルネット1キロ粒剤	1 kg	移植時又は移植直後～ノビエ1葉期 (移植後5日まで)	1回	1	①代掻後に初期剤を使用した場合は、移植まで必ず7日間空け、その間落水はしないこと。 ②初期剤は代掻同時に処理できないため十分注意する。 ③エリジャン乳剤は移植同時滴下処理できないため注意する。
	エリジャン乳剤	300ml	移植直後～ノビエ1葉期 (移植後5日まで)	1回	1	
	エリジャンジャンボ	小包装(パック)10個(300g)				

◆ 初中期一発除草剤 ※以下のいずれか1回のみ使用可能

回数	土づくり安心米	10aあたり使用量	使用時期	使用回数	カウント成分	注意事項
④	ガツントZ1キロ粒剤	1 kg	移植時又は移植直後～ノビエ3.5葉期 (移植後30日まで)	1回	2	①特別栽培米においては、ガツントZ剤を使用すること。 ②シンズイズ剤は農薬カウント成分が多いので、土づくり安心米の最大12成分を超えないよう注意する。
	ガツントZフロアブル	500ml				
	ガツントZ200FG	200g				
	ガツントZジャンボ	小包装(パック)10個(200g)	移植後3日～ノビエ3.5葉期 (移植後30日まで)	1回	3	
	デオーレ1キロ粒剤	1 kg	移植時又は移植直後～ノビエ3葉期 (移植後30日まで)			
	デオーレフロアブル	500ml	移植後1日～ノビエ3葉期 (移植後30日まで)			
	デオーレジャンボ	小包装(パック)10個(400g)	移植後3日～ノビエ3葉期 (移植後30日まで)	1回	4	
	デオーレ顆粒	80g				
	シンズイズ1キロ粒剤	1 kg	移植時又は移植直後～ノビエ4葉期 (移植後30日まで)	1回	4	
	シンズイズフロアブル	500ml	移植後3日～ノビエ4葉期 (移植後30日まで)			
	シンズイズ豆つぶ250	250g				
	シンズイズジャンボ	小包装(パック)10個(250g)				

◆ 中後期除草剤

回数	土づくり安心米	10aあたり使用量	使用時期	使用回数	カウント成分	注意事項
⑤	テッケン1キロ粒剤 テッケンジャンボ	1 kg 小包装(パック)10個(500g)	移植後15日～ノビエ4葉期 但し、収穫60日前まで	1回	2	①初中期一発除草剤にガツントZ剤を使用した場合のみ使用可能

以下の①～③の体系のいずれかを選択する。例年残草の多いほ場では、②・③の体系が有効。

	代かき			田植え																				
	-3	-2	-1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
① 初中期一発剤のみ							デオーレ1キロ粒剤 シンズイズ1キロ粒剤																	
② 初期剤 + 初中期一発剤							ソルネット1キロ粒剤																	
③ 初中期一発除草剤 + 中後期除草剤							ガツントZ1キロ粒剤 ガツントZフロアブル ガツントZ200FG ガツントZジャンボ																	
田植後日数	-3	-2	-1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20

◆ 残草対策 ※以下のいずれか1回のみ使用可能(表中の使用回数は、農薬登録上のものです。)

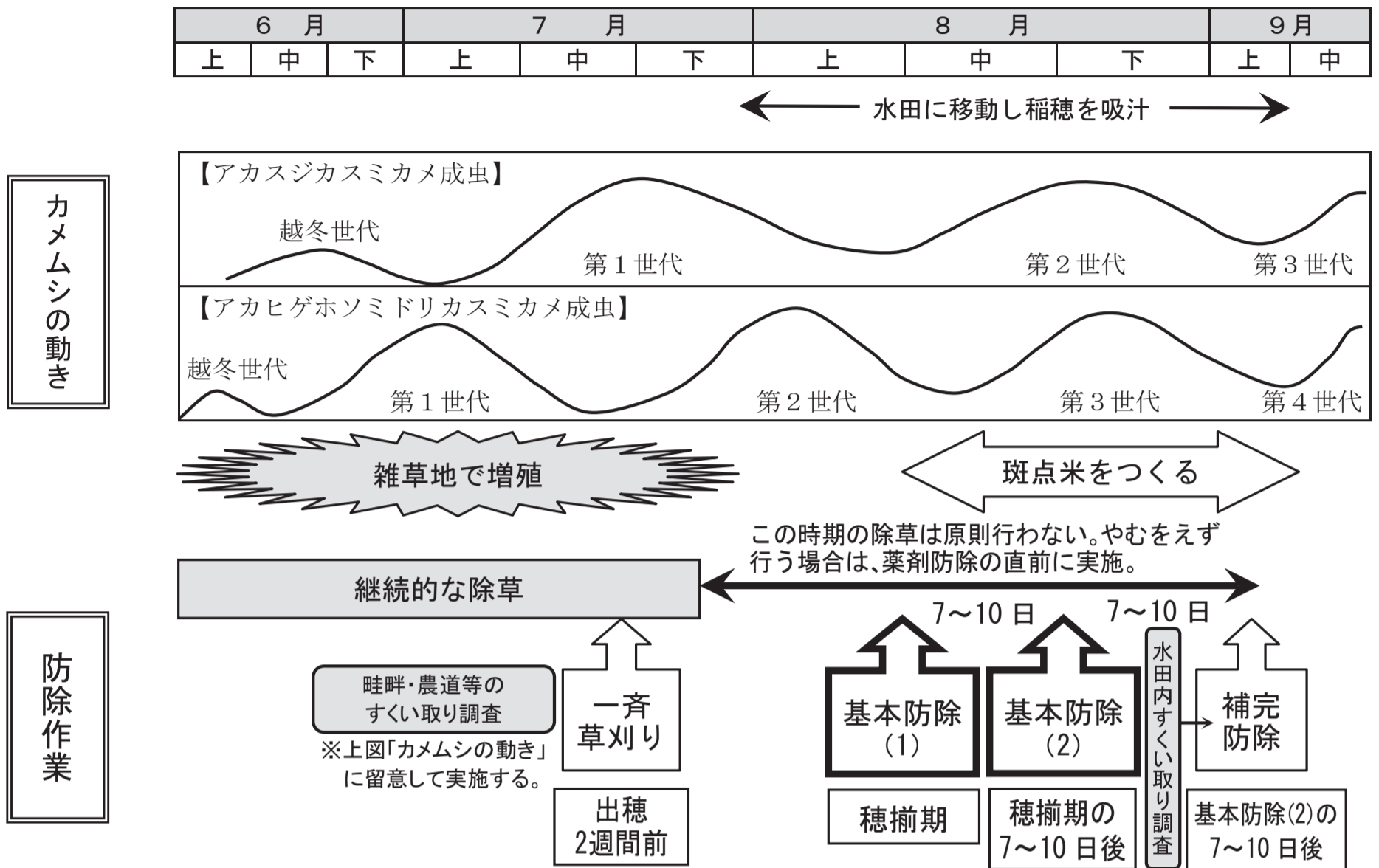
回数	雑草の種類	土づくり安心米	10aあたり散布量	使用時期・使用基準	使用回数	カウント成分
	ノビエ	クリンチャー1キロ粒剤	1 kg 1.5kg	移植後7日～ノビエ4葉期、収穫30日前まで 湛水散布 移植後25日～ノビエ5葉期、収穫30日前まで 湛水散布	2回以内	1
		クリンチャーEW	薬液100mlを水で希釈して 25～100ℓとする	移植後20日～ノビエ6葉期、収穫30日前まで 湛水散布又は落水散布	2回以内	1
		クリンチャージャンボ	小包装(パック)20個(1kg) 小包装(パック)30個(1.5kg)	移植後7日～ノビエ4葉期、収穫30日前まで 移植後25日～ノビエ5葉期、収穫30日前まで	2回以内	1
		トドメMF1キロ粒剤	1 kg	移植後14日～ノビエ5葉期、収穫50日前まで	3回以内	1
		トドメMF乳剤	薬液200mlを水で希釈して 100ℓとする	移植後14日～ノビエ7葉期、収穫50日前まで	2回以内	1
④	水田一年生雑草 (イネ科を除く) マツバイ、ホタルイ、ウリカワ ミズガヤツリ、オモダカなど	バサグラン粒剤 (ナトリウム塩)	3～4 kg	移植後15日～55日、収穫60日前まで 落水散布又はごく浅く湛水して散布	1回	1
		バサグラン液剤 (ナトリウム塩)	薬液500～700mlを水で希釈して 70～100ℓとする	移植後15日～55日、収穫50日前まで 落水散布(出来るだけほ場が乾いている状態で)	2回以内	1
		バサグラン・エアー 1キロ粒剤	1 kg	移植後15日～55日、収穫60日前まで 落水散布又はごく浅く湛水して無人航空機による散布	1回	1
	水田一年生雑草(ノビエなど) 多年生広葉雑草	ワイドアタックSC	薬液100mlを水で希釈して 100ℓとする	移植後20日(イネ5葉期以降)～ノビエ6葉期 但し収穫30日前まで 落水散布又はごく浅く湛水して散布 ※散布は6月下旬頃まで(遅れないこと)	2回以内	1
	一年生広葉雑草及びノビエ、 マツバイ、ミズガヤツリ、セリ、 ウリカワ、オモダカなど	ロイヤント乳剤	薬液200mlを水で希釈して 100ℓとする	移植後20日～ノビエ5葉期、収穫45日前まで 落水散布又はごく浅く湛水して散布又は湛水散布 ※湛水散布はオモダカ、アゼガヤに登録なし	2回以内	1
	クサネム、イボクサ	ノミニー液剤	薬液50～100mlを水で希釈して 100ℓとする	移植後30日～収穫60日前まで 但しクサネムの草丈40cm、イボクサの茎長30cmまで 落水散布又はごく浅く湛水して散布	1回	1

※除草効果を高めるために、クリンチャーEWのみ展着剤(ハイテンパワー10,000倍希釈)を加用できる。

農薬の適正使用、飛散防止に努めましょう!!

カメムシ重点防除 ◇耕種的防除の徹底◇

斑点米カメムシ類の動きと防除作業の関係



◆ 空散防除体系

回数	使用時期	対象病害虫名	土づくり安心米	使用基準	使用回数	注意事項
⑥	8月上旬 (穂揃期まで)	いもち病 カメムシ類	ダブルカット K フロアブル	10a 当たり 800ml (8倍希釈) 無人ヘリコプターによる散布 穂揃期まで	2回以内	①航空防除協議会で定めた使用薬剤、散布日程で行うが、天候不順などにより散布時期が遅れたり、散布間隔が長くなる場合、または病害虫が多発している場合は、補完防除を実施する。
⑦	8月中旬 (穂揃7~10日後)	カメムシ類 ウンカ類	スタークル液剤10	10a 当たり 800ml (8倍希釈) 無人ヘリコプターによる散布 収穫7日前まで	3回以内	

※ダブルカットKフロアブルの使用が困難な場合、アミスタートレボンSEを使用する。

◆ 地上防除体系

回数	使用時期	対象病害虫名	土づくり安心米	使用基準	使用回数	注意事項
⑥	8月上旬 (穂揃期まで)	いもち病 カメムシ類	ダブルカット K 粉剤 DL	10a 当たり 4kg 散布 穂揃期まで	2回以内	①カメムシ被害防止対策として2回の基本防除は必ず実施する。
			ダブルカット K フロアブル	10a 当たり 60~200ℓ (1,000倍希釈) 散布 穂揃期まで		
⑦	8月中旬 (穂揃7~10日後)	カメムシ類 ウンカ類 ツマグラヨコバイ	スタークル粉剤 DL	10a 当たり 3kg 散布 収穫7日前まで	3回以内	
			スタークル液剤10	10a 当たり 60~150ℓ (1,000倍希釈) 散布 収穫7日前まで		

◆ 特別防除

回数	使用時期	対象病害虫名	土づくり安心米	使用基準	使用回数	注意事項
⑧	6月下旬~ 7月下旬	イナゴ類 (カメムシ類)	トレボン粉剤 DL	10a 当たり 4kg 散布 収穫7日前まで	3回以内	①イナゴ類やカメムシ類の発生が多い場で散布する。 ②フタオビコヤガの発生が多い場では、トレボン粉剤 DL を10a 当たり 3kg 散布する。
			トレボン乳剤	10a 当たり 60~150ℓ (2,000倍希釈) 散布 収穫14日前まで		
	8月下旬~ 9月上旬	カメムシ類	スミチオン粉剤 3DL	10a 当たり 4kg 散布 収穫21日前まで	2回以内 出穂前は1回	①常襲地帯、多発生時に実施する。 ②イネの生育を考慮し防除時期を決定する。 ③イネの収穫前日数に注意して使用する。
			スミチオン乳剤	10a 当たり 60~150ℓ (1,000倍希釈) 散布 収穫21日前まで	2回以内	
⑨	7月上旬~ 中旬	稲こじ病	Z ボルドー粉剤 DL	10a あたり 3kg 出穂10日前まで	-	①常襲地帯に実施する。 低温、多湿、日照不足で発生が助長される。 ②散布後少なくとも7日間は落水、かけ流しはしない。
⑩	7月下旬~ 穂揃期まで	いもち病	カスミン液剤	1,000倍希釈散布 穂揃期まで	2回以内	①早期発見に努め初期防除が肝心。 ②耐性菌出現防止のため連用はしない。 ③ダブルカットK粉剤DL(フロアブル)と合わせた使用回数を2回以内とする。
⑪	7月下旬~ 8月上旬	紋枯病	バリダシン粉剤 DL バリダシン液剤 5	10a 当たり 4kg 散布 収穫14日前まで 10a 当たり 60~150ℓ (1,000倍希釈) 散布 収穫14日前まで	5回以内	①はえぬきの場合、穂ばらみ後期には場中央部の発病株率が10%以上、出穂期で15%以上の場合使用する。

◆ 水稻倒伏軽減剤

回数	使用時期	用途	土づくり安心米	使用量	使用回数	注意事項
⑫	出穂25~10日前まで 出穂25~20日前まで	節間短縮による倒伏軽減	ロミカ粒剤 コープショート14 コープショート21	10a 当たり 2~3kg 湛水散布 10a 当たり 7~10kg 湛水散布 10a 当たり 10~15kg 湛水散布	1回	①出穂25日前頃、生育診断(生育量、葉色等)を行い、倒伏の恐れがあるところで使用する。 ②湛水で均一に散布し、ムラが生じないように留意する。 ③散布したほ場の土を、野菜等育苗用培土に使用しない。

農薬の適正使用、飛散防止に努めましょう!!

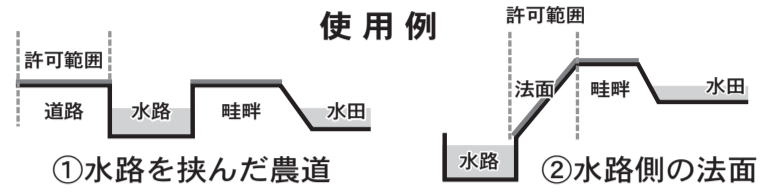
◆ 畦畔除草剤

使用時期	適用雑草	使用薬剤	使用量	注意事項
雑草生育初期	水田畦畔の一年生雑草及び多年生雑草	ザクサ液剤 + ダイロンゾル	10a 当たりザクサ液剤 1ℓ ダイロンゾル 250ml を 水で希釈して 100ℓ とする	①イネに飛散しないように、十分注意する。 ②ザクサ液剤とダイロンゾルを混用する場合は 1 回までとする。 ザクサ液剤は収穫 7 日前まで、2 回以内の使用とする。 ③バスタ液剤は収穫 7 日前まで、2 回以内の使用とする。 ④ラウンドアップマックスロードは収穫前日まで、3 回以内の使用とする。 ⑤ポリネーション導入時期はミツバチやマメコバチへの影響が懸念されるため、原則使用しない。
雑草生育期 (草丈 30cm 以下)		バスタ液剤	10a 当たり薬液 500ml を 水で希釈して 100ℓ とする	
		ラウンドアップマックスロード		

※特別栽培米（つや姫・雪若丸）では、

畦畔除草剤の使用は原則代掻き前のみとする

水稲への飛散が確認された場合、特別栽培米の認証が取り消しになる場合があります。



5. 令和 6 年（栽培区分別）水稲病害虫防除体系

項目	時期	主な対象病害虫・雑草	土づくり安心米タイプ		特別栽培米タイプ				
			はえぬき、コシヒカリ、あきたこまち、雪若丸	カウント成分	つや姫、雪若丸	カウント成分			
種子消毒	4月上旬	ばか苗病、いもち病 苗立枯細菌病	温湯処理		0	温湯処理	0		
育苗期	4月中下旬	苗立枯病 (フザリウム菌・ピシウム菌・ リゾプス菌)	ナエファイン粉剤 又はナエファインフロアブル		1	ナエファイン粉剤 又はナエファインフロアブル	1		
育苗箱 施用剤	5月中下旬 (緑化期～移植当日)	いもち病 イネミズゾウムシ イネドロオイムシ イナゴ類など	ブイゲットパディート粒剤		2	ブイゲットパディート粒剤	2		
本田期	初期 除草剤	5月中下旬	水田一年生雑草 ホタルイなど	Ⓐ一発除草剤体系 Ⓑ初期十一発除草剤体系	Ⓒ一発除草剤 + 中後期除草剤体系	ソルネット 1 キロ粒剤 又はエリジャン乳剤 又はエリジャンジャンボ	—	ソルネット 1 キロ粒剤 又はエリジャン乳剤 又はエリジャンジャンボ	1
				ガツント Z1 キロ粒剤 又はガツント Z フロアブル 又はガツント Z 200 F G 又はガツント Z ジャンボ 又はデオーレ 1 キロ粒剤 又はデオーレ フロアブル 又はデオーレ ジャンボ 又はデオーレ 顆粒 又はシンズイ Z1 キロ粒剤 又はシンズイ Z フロアブル 又はシンズイ Z 豆つぶ 250 又はシンズイ Z ジャンボ	ガツント Z1 キロ粒剤 又はガツント Z フロアブル 又はガツント Z 200 F G 又はガツント Z ジャンボ				
	中後期 除草剤	6月上旬 ～6月下旬	水田一年生雑草 ホタルイなど	—	テッケン 1 キロ粒剤 又はテッケンジャンボ	2	—	—	
	残草 対策	6月下旬	ノビエ	クリンチャー 1 キロ粒剤 又はクリンチャー E W 又はクリンチャー ジャンボ 又はトドメ MF 1 キロ粒剤 又はトドメ MF 乳剤		(1)	又はバサグラン粒剤 (ナトリウム塩) 又はバサグラン液剤 (ナトリウム塩) 又はバサグラン・エアー 1 キロ粒剤 又はノミニー液剤 又はロイヤント乳剤 又はワイドアタック S C	バサグラン粒剤 (ナトリウム塩) 又はバサグラン液剤 (ナトリウム塩) 又はバサグラン・エアー 1 キロ粒剤	(1)
			水田一年生雑草など (イネ科を除く)						
			クサネム・イボクサ 一年生広葉雑草およびノビエ、 ミズガヤツリ、オモダカなど						
			水田一年生雑草など (ノビエなど)						
	特別 散布	6月下旬 ～7月下旬	イナゴ類、カメムシ類 (フタオビコヤガ) など	トレボン粉剤 DL 又はトレボン乳剤		(1)	—	—	
		8月下旬	カメムシ類	又はスミチオン粉剤 3 D L 又はスミチオン乳剤 (注1)		(1)	—	—	
		7月上旬	節間短縮による倒伏軽減	ロミカ粒剤 又はコープショート 14 又はコープショート 21 (注1)		(1)	—	—	
7月上旬～中旬		稲こうじ病	Z ボルドー粉剤 D L		0	Z ボルドー粉剤 D L	0		
7月下旬 ～8月上旬		紋枯病	バリダシン粉剤 D L 又はバリダシン液剤 5		0	バリダシン粉剤 D L 又はバリダシン液剤 5	0		
7月下旬～穂揃期		いもち病	カスミン液剤		0	カスミン液剤	0		
基本 防除	8月上旬 (出穂始め)	いもち病 カメムシ類 (ウンカ類)	空散防除	ダブルカット K フロアブル	2	ダブルカット K フロアブル	2		
	8月中旬 (穂揃 7 ～10日後)	カメムシ類 ウンカ類	地上防除	ダブルカット K 粉剤 DL 又はダブルカット K フロアブル		ダブルカット K 粉剤 DL 又はダブルカット K フロアブル			
			空散防除	スタークル液剤 10	1	スタークル液剤 10	1		
			地上防除	スタークル粉剤 D L 又はスタークル液剤 10		スタークル粉剤 DL 又はスタークル液剤 10			
農薬成分回数			最大 12		最大 10				

※散布薬剤は、水稲の生育状況や病害虫発生状況を考慮し登録内容を確認して散布して下さい。
 ※空散防除体系の本田防除薬剤は、病害虫発生状況などによりJAさがえ西村山航空防除連絡協議会で協議決定しますので、使用薬剤が変更になる場合があります。
 ※ダブルカット K フロアブルの使用が困難な場合、アミスタートレボン SE を使用する。
 ※「つや姫」については、特別栽培米タイプのみの栽培体系となりますので、使用薬剤、成分回数にご注意下さい。
 注 1 あきたこまちなどの早生種は、収穫前日数の使用基準に特にご注意下さい。

農薬の適正使用、飛散防止に努めましょう!!

II. 施肥基準

1. 食味値80以上、低タンパクの高食味米・安定した「清流寒河江川」の生産は土づくりから

- ◆食味分析結果によると土づくり肥料を施用している米は、食味値がより高く、品質、耐病性、耐倒伏性の向上と、生産の安定性が増すことが明らかです。毎年継続して散布して下さい。
- ◆土づくり実践集団による共同散布を毎年継続実施し生産された『土づくり安心米（減農薬米）』をこだわり米として大幅に拡大し有利販売しています。

(kg/10a)

施用時期	土づくり肥料名	特 性	普通田 (稲わら還元田)	摘 要
① 春又は秋	天の恵み14号	りん酸3%、<溶性苦土5% 可溶性けい酸27%、アルカリ46%	90~120kg	◎天の恵み14号はようりん1：ケイカル4を混合した省力土づくり肥料です。剤型：砂状
	けい酸加里プレミア	<溶性苦土4%、<溶性加里20% 可溶性けい酸34%、<溶性ホウ素0.1%	40~60kg (2~3袋)	◎病気や倒伏に強くなり、登熟歩合の向上と食味向上に効果があります。剤型：粒状
② 6月下旬~ 7月上旬	KSK28	可溶性けい酸28%、<溶性加里17%	1.4kg (1本)	◎倒伏軽減、登熟向上、高温障害（胴割れ・乳白）対策に効果があります。剤型：液剤
③ 秋	ワラ分解キング	低温時でも稲わら分解に効果を発揮する稲わら腐熟促進剤。特別栽培適合銘柄。	10kg (1袋)	◎稲わらに直接ふりかけ、施用後すぐに浅く耕起する。剤型：顆粒状
	ペレットわらゴールド	微生物を堆肥に培養した稲わら腐熟促進剤。特別栽培適合銘柄。	30kg (2袋)	◎散布後すぐに浅く耕起する。 2袋/10a。剤型：ペレット
	石灰窒素	窒素20~21%、アルカリ分55% 稲わらなどの有機物を分解する微生物が好む環境にし、腐熟を促進する。	20kg (1袋)	◎散布後すぐに浅く耕起する。 稲わら腐熟促進を目的とすれば特別栽培米でも使用可能。地力の劣るつや姫圃場で10kg/10aまで。剤型：粒状・粉状
	地力上げ隊	窒素10%、アルカリ分25% ケイ酸、マンガンなどを含むため、稲わらなどの腐熟促進に加え、土づくりの効果が期待できる資材。	40kg (2袋)	◎散布後すぐに浅く耕起する。 石灰窒素を含む。 稲わら腐熟を目的とすれば地力の劣るつや姫圃場で20kg/10a施用可能。剤型：粒状

「ようりん」「ケイカル」を施用すると

- ① 土壌の酸性を矯正し、稲の活力を高めます。
- ② 根、茎、葉を丈夫にし登熟歩合が向上し食味が良くなります。
- ③ いもち病等の病害虫や倒伏に対する抵抗性を高めます。必ず施用してね！！

「ワラ分解キング」「ペレットわらゴールド」「石灰窒素」「地力上げ隊」は、

- ① 稲わらを腐熟させ、代かきが容易でワラの浮きが少なくなります。
- ② 有害ガス（硫化水素）の発生が少なくなり根ぐされを防止します。
- ③ 鉄分補給により、酸化鉄の膜をつくり根を保護します。

ようりん・ケイカルと合わせて使用すると効果的です。

●稲にはこんなにケイカルが必要

玄米収量600kgの時（10a 当たり）

水田から持ち出されるけい酸量 156kg	土壌などから供給されるけい酸量 83kg~128kg	不足するけい酸量 28kg~73kg
-------------------------	-------------------------------	-----------------------

稲が吸収するけい酸量120kg
溶脱するけい酸量36kg

稲わら、堆肥などから持ち込まれるけい酸量50kg

土壌などから供給されるけい酸量15kg~50kg（砂質土~粘質土）

灌漑水から持込まれるけい酸量28kg

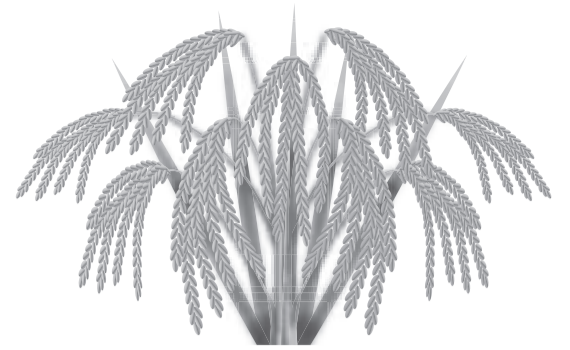
**天の恵み14号
100kg~200kg
(粘質土) (砂質土)**

2. 令和6年用水稲施肥設計書

《育苗》

区分	種別	肥料名 (N-P-K)	一箱当たり所要量	摘 要
人工培土	高品質	パールマット	1袋で 約7枚分	育苗に必要な成分NPKに加え苦土を含み、更にピートモス、パーミキュライトを配合した、通水、保水性の優れた培土で誰でも容易に安全に健苗がつかれる使いやすい人工培土。(N:1.5g P:1.5g K:1.5g/1枚)
	低コスト	JAさがえ西村山オリジナル培土	1袋で 約5枚分	粉状のタイプで、3要素の肥料が配合された人工培土では、一番低コスト。
		いなほ育苗粒状培土	1袋で 約6枚分	育苗後半まで、粒状を保つ3要素の肥料を配合した人工培土で、特に覆土用に使用すると土の持ち上がりがなくなるので最適。 (N:1.8g P:2.7g K:1.8g/1枚)
人工マット	軽量 低コスト	パワーマット	30枚/1ケース	ロックウール製のNPK成分を配合した人工マットで、軽く育苗作業が楽々、苗の持ち運びは、土の約半分の重さ。は種時はたっぷり約2%の水を灌水する。土に比較し、水分量が多いので、育苗期間中の夜間の保温と、節水管理に努め追肥は早めに行う。なお、覆土には育苗専用粒状培土を使用する。 (N:1.8g P:1.0g K:2.0g/1枚)
無肥床土混合	基肥追肥 一発型	新育苗一発313(稚苗用) (13-11-13)	60g	6kg 1袋で100枚分 育苗期間中の追肥が省略できる。(床土混合)
		新育苗一発313(中苗用) (13-11-13)	80g	8kg 1袋で100枚分 "
肥料入り床土混合	追肥省略型	エコロング413M100日 (14-11-13)	稚苗 50g/箱、約200枚/1袋 中苗 70g/箱、約140枚/1袋	100日タイプの育苗用コーティング肥料で、育苗期間中の追肥を省略できる。床土に混合しては種するか、は種前に機械散布で施肥もできる。コーティング肥料のため、被膜損傷に注意する。
追 肥		くみあい液肥2号 (10-4-8)	100倍液 500cc 灌注	6% 1缶で1,200枚分 水洗い不要 1.5葉期頃(中苗は、1.8葉期頃)と田植え直前の2回
		硫 安 (21-0-0)	5g/箱 ※300ccに溶かして灌注	20kg 1袋で4,000枚分 葉焼けしないよう直後に十分水洗いする。
補助資材 (浸種・散布)		MR-X	薬液を水で100倍希釈して48時間浸種 育苗中、薬液を水で500倍希釈して散布	1L・18L 健苗育成、発根促進の効果が期待できる補助資材。窒素を含まない、微量元素が中心のため特別栽培にも使用可能。 浸種に使用した液を希釈して散布可能。

高品質・低コスト・省力農業で清流寒河江川の生産を！！



【品種別施肥基準】

品種	施肥区分 ①	施肥区分 ②	肥料名	容量 (kg)	成分(%)			10a当り施肥量		特 性
					N	P	K	現物量	(N-P-K:kg)	
はえぬき	基肥一発型	基肥一発	軽量安心米一発30	15	30	8	10	27kg	(8.1-2.2-2.7)	高窒素成分により現物量が少なく省力。被覆尿素LP30により初期生育確保しやすい。
		基肥一発	全農型配合一発306	20	30	10	6	27kg	(8.1-2.7-1.6)	窒素30%のうち速効性15%、緩効性は30日と70日タイプの組み合わせ。高窒素成分により現物量が少なく省力。
		基肥一発	エコマスター水稻一発555	20	15	5	5	54kg	(8.1-2.7-2.7)	鶏ふん堆肥入り肥料。緩効性80日タイプにより生育後半まで肥効が持続。低PK肥料のため、土づくり資材との併用を推奨。
	基肥+追肥型	基肥	化成肥料14・14・14	20	14	14	14	43kg	(6.0-6.0-6.0)	化成肥料14・14・14については、従来の肥料より価格抑制を実現した肥料。速効性なため茎数を確保しやすい。追肥は出穂25日前。
		追肥	はえぬき専用追肥NK22	20	20		20	10kg	(2.0-0-2.0)	
		基肥	はえぬき専用肥料(尿素系・塩安系)	20	15	17	15	40kg	(6.0-6.8-6.0)	ガスが発生しやすい圃場、秋落ち水田では基肥に塩安系肥料を使用する。追肥は出穂25日前 はえぬき専用肥料は側条施肥にも対応する。
		追肥	はえぬき専用追肥NK22	20	20		20	10kg	(2.0-0-2.0)	
	はえぬき専用肥料+側条肥料(ペースト)	基肥	はえぬき専用肥料(尿素系・塩安系)+ペースト肥料	20	15	17	15	20kg+25kg	(3.0-3.4-3.0)+(3.0-3.0-3.0)	はえぬき専用肥料に替えて化成肥料14・14・14を使用すると低コストになる。追肥は出穂25日前
		追肥	はえぬき専用追肥NK22	20	20		20	10kg	(2.0-0-2.0)	
	雪若丸	基肥一発型	基肥一発	軽量安心米一発30	15	30	8	10	27kg	(8.1-2.2-2.7)
基肥一発			全農型配合一発306	20	30	10	6	27kg	(8.1-2.7-1.6)	窒素30%のうち速効性15%、緩効性は30日と70日タイプの組み合わせ。高窒素成分により現物量が少なく省力。
基肥一発			エコマスター水稻一発555	20	15	5	5	54kg	(8.1-2.7-2.7)	鶏ふん堆肥入り肥料。緩効性80日タイプにより生育後半まで肥効が持続。低PK肥料のため、土づくり資材との併用を推奨。
コシヒカリ	価格抑制肥料	基肥	化成肥料14・14・14	20	14	14	14	22kg	(3.1-3.1-3.1)	追肥は出穂15～20日前
		追肥	はえぬき専用追肥NK22	20	20		20	7.5kg	(1.5-0-1.5)	
ひとめぼれ	価格抑制肥料	基肥	化成肥料14・14・14	20	14	14	14	32kg	(4.5-4.5-4.5)	追肥は出穂20日前
		追肥	はえぬき専用追肥NK22	20	20		20	10kg	(2.0-0-2.0)	
あきたこまち	価格抑制肥料	基肥	化成肥料14・14・14	20	14	14	14	35kg	(4.9-4.9-4.9)	追肥は出穂20日前
		追肥	はえぬき専用追肥NK22	20	20		20	10kg	(2.0-0-2.0)	

※雪若丸は「土づくり安心米体系」で申し込みされた圃場でのみ、上記施肥基準に該当となります。「特別栽培体系」では使用できません。

※「基肥一発50」「基肥一発60」「楽々軽助くん一発」「軽田くん一発708」は「軽量安心米一発30」へ集約となります。

(在庫となっている集約対象銘柄は土づくり安心米体系での使用可能)

【専用肥料の選び方】

施肥区分 ①	施肥区分 ②	肥料名	容量 (kg)	成分(%)			10a当り施肥量		特 性
				N	P	K	現物量	(N-P-K:kg)	
追肥を緩効性にして秋落ち対策がしたい	追肥	はえぬき専用LPNK22	15	20		20	はえぬきの場合10kg	(2.0-0-2.0)	秋落ち、砂質土壌ではNK22に替えて緩効性のLPNK22を使用する。追肥は出穂30日前(やや早めに)
追肥に倒伏軽減剤を入れ倒伏対策をしたい(コシヒカリ、ササニシキ等)	追肥	コープショート14	10	14	2	17	コシヒカリの場合10kg	(1.4-0.2-1.7)	倒伏軽減剤(ロミカ)入穂肥で省力化。出穂25～10日前に湛水散布10a当り7～10kg散布、使用回数は1回
	追肥	コープショート21	15	14	2	17	コシヒカリの場合10kg	(1.4-0.2-1.7)	倒伏軽減剤(ロミカ)入穂肥で省力化。出穂25～20日前に湛水散布10a当り10～15kg散布、使用回数は1回